

# 出向の狙いは『クビ切り』だ



87. 7. 25

No. 2611

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 強制出向反対のスト権確立へ ハラを固めて闘えば勝利でござる

北海道からの広域募集者一二五名の配属（八月一日）を契機として、千葉においても、強制出向攻撃が本格的に開始されようとしている。強制出向攻撃は、この間の一連の強権的労務支配の攻撃、たたかう労働組合の全面的否定の攻撃の頂点をなす攻撃である。さらに、そのみならず、八千人から一万人にもおよぶたたかう国鉄労働者の首切り攻撃である。われわれは、過日開催された臨時委員会において、四・一以降、労働者を人とも思わぬこれだけの理不尽な攻撃をうけながら、今ここで起ちあがらなすとすれば、動労千葉の存在価値が失われる事態であることについて、認識を一致させ、出向攻撃に対しては、ストライキをも辞さずたたかう方針を決定した。これは、出向攻撃とのたたかいを中心に動労千葉が、いよいよ全面的な反転攻勢にうつて宣言でもある。また、重要なことは、出向攻撃とのたたかいは、われわれがハラを固め、毅然としてたたかえば必ず勝利することができるというものである。全職場で反撃への論議をまきおこし、スト権確立の一票投票を成功させよう。

### 出向攻撃の狙いを見極めよう！

このたたかいにあたって、われわれは、まず始めに、敵が出向攻撃にかけたその狙いをはつきりと見極めなければならない。この点でわれわれは、会社当局の意図がもつともむきだしのかたちで語られているものとして、四月二十八日に開催された東日本本社出向会議の内容に注目しなければならぬ。本社と各運行本部の担当者を集めて「意志統一」された内容の概要は、つぎのとおりである。

- \* 八千から一万といわれる余剰人員は、新会社の経営の根幹を揺るがしかねない重大問題。
- \* 「企業内失業者」も自分の給料分は稼いでもらわなければならない。
- \* 「温室の者」を木枯らしや酷暑の環境において意識改革を行うことは、社員管理上も必要なこと。
- \* 極力、「分散配置」すること。
- \* 通常の人事異動の一環ということからすれば期間を明示する必要はない。
- \* 賃金については、会社基準・出向先基準のいずれか。当面はいろいろな係争が予想されるので原則として会社基準で行う。

### ウソでぬり固めて 不当労働行為を強行

ここで語られている内容は、団交の席上など公の場で当局が主張してきたことと一八〇度くい違

う内容である。団交の席上では、「出向の目的は、関連企業の指導、育成と民間企業としての人材育成」「『要員調整』のために出向を出すのではないし、勤務成績の悪い者、言うことを聞かぬ者を出すでもない」と言い続けてきたのである。ここに、現在のJRの体質が鮮明にあらわれているといえる。

表面だけは、綺麗にかざりたてているが、皮を一枚むけば、そこでは労働者をいたぶり、いじめぬく不当労働行為が平然とまかりとおっているのである。

### 強制出向は、 首切り攻撃そのものである

さて、出向攻撃のほんとうの狙いは、「出向会議」の内容を見れば一目瞭然のとおり、「JR内で八千人から一万人の労働者は失業者であり、本来は賃金を払う必要もない。出向でおい出し、稼いでもらう。今だ当局の奴隷になりきらない者を木枯らしや酷暑のなかにおい出し意識改革させるのが目的である。だからバラバラに分散配置しなければならぬ。意識改革できた者だけを返すのだから、期限を明示する必要もない。賃金も争いをおさえるために当面会社基準でいくが、三年たてば、出向先にする。：：：というのである。すなわち、現在進められている出向攻撃とは、「出向」に名を借りた首切り攻撃だということである。そして、動労千葉、国労など、たたかう労働組合の組織破壊攻撃そのものなのである。

（つづく）